工学部　第60回工大祭報告

工学部工大祭実行委員長　内野　元稀

こんにちは。工大祭実行委員会です。この度は第60回工大祭にご参加していただき誠にありがとうございました。

今年度11月21日、22日に行われた『Go Kyutech Festival～Zero から作る工大祭～』というテーマの第60回工大祭はコロナ禍での開催となりました。全国的に見ても大学祭が中止や完全オンライン化していく中、九州工大では対面とオンラインの融合と言えるハイブリッド型の大学祭を行うことができました。この状況下での大学祭に心配されていた方々もいらっしゃったと思われますが、万全な感染症対策を徹底した上で開催し、クラスター感染等の問題も一切起こらず、終えることができました。

ここで、工大祭のイベントを見逃した方もいらっしゃると思いますので、振り返らせていただきます。1日目は、学科展サークル展のみの開催となりました。そして、2日目にはそれに加えて檣山館でステージ企画を行いました。企画は、クイズ・筋トレ・カラオケ・コスプレの4種類催され、九州工大生が出場しました。ステージの最後には、メンネルコールの合唱、舞踏、KDC DANCE SHOW、キーワード企画等がある秋輝祭が行われました。学内の学生は対面で参加できましたが、ステージの様子は Youtube でライブ配信していました。

新型コロナウイルスによる1回目の緊急事態宣言時、GWまで授業が中止となり、とても混乱していました。そのような前代未聞の状況の中、工大祭実行委員会では、工大祭を工夫して開催するために尽力しました。課外活動が対面で認められない期間は、オンライン上で会議や、人員不足解消のために新入生の実行委員会への勧誘等に努めました。そして、6月末頃に課外活動が対面で再開できるようになったため、感染症対策やガイドラインの制定をいち早く行い、工大祭開催に向けて本格的に動き始めました。その頃には中止になる可能性も話されていました。そこで、どのような形態で開催か中止か、開催ならばどのような対策を取るか等、本当に多くのことを様々な関係者を交えながら話し合いました。話し合いや準備の際は、学生係や学務課、保健センター等、大学関係の方々に本当にお世話になりました。

工大祭実行委員会のメンバーの皆は、今年の全く先の見えない開催に向けよく諦めることなくついてきてくれたと思います。私自身、工大祭実行委員会で様々なことを経験し、大きく成長できましたが、自分一人の力では、成し遂げることはできなかったと思います。私達の学年は人数が多い方で、人材も豊富であったため、組織としては安定していて、今年度はより進化した工大祭が可能であると考えていました。しかし、コロナ禍で元々思い描いていたような工大祭を迎えることはできませんでした。ただ、このような形となり、やむを得ず中止にした催しも多く、やりたかったことと差が生じて少々物足りない気もしましたが、このメンバーだったからここまでのものを開催できたのだと考えております。私は、この仲間達を本当に誇らしく思います。来年度の工大祭についても未定であるため、後輩達が作り上げる第61回工大祭がとても楽しみです。

最後になりましたが、第60回工大祭を行うにあたりご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

工大祭実行委員会：
大学会館2階活動室2
TEL：093-883-0679
ホームページ：http://kit-fes-tobata.com/
Twitter：@KIT_fes_tobata

第60回　工大祭実行委員会のメンバー

情報工学部　第60回工大祭

情報工学部工大祭(初のオンライン開催)実行委員長
小川　慎太朗

皆様、ご機嫌よう。初のオンライン開催となった工大祭、お楽しみいただけたでしょうか？　感染拡大による影響で大学に通えず、仲間にも会えないという状況にも関わらず、工大祭ができたこと、とても嬉しく思います。また、たくさんの方々にご支援いただいたことは、今でも忘れません。

さて、少し第60回工大祭を振り返りたいと思います。情報工学部工大祭のテーマは「Rebooting～新しい工大祭様式～」となっており、新時代に適応すべく工大祭を再始動する、という意味がこめられています。特筆すべきは、何と言ってもYouTubeによるライブ配信です。メインチャンネルでは、体育館メインステージの様子を配信し、サブチャンネルでは研究室や学生団体を紹介するロケ映像の放映をしました。企画の間には、地元応援企画と題し、例年広告を出していただいている地域のお店の地元応援動画を、CMのような形で放映しました。最後には、工大祭の目玉である花火を打ち上げ、中継も行いました。YouTube以外では、小中学生向けの科学実験教室をzoomにてオンライン開催しました。また、生協委員会による受験生向け相談会や、学生自治会による1年生向け相談会など、オンラインではありますがたくさんの方々に参加していただきました。

このように、大盛況の工大祭でしたが、開催に至るまでに様々な困難や障害がありました。オンライン配信をするにあたって、ネットワーク環境や著作権の問題、工大祭で感染者が出ないように準備期間から本番片付けに至るまで、今までに経験したことがない苦労がたくさんありました。そんな状況にも関わらず、最後までついてきてくれた実行委員の皆、様々な面でサポートしていただいた大学教職員の方々、配信サポートをしていただいた音響会社の方々など、たくさんの方々に、何とか工大祭が開催できるように助けてもらいました。このようなことは、コロナ禍であったからこそ経験することができたと思いますし、気付けたと思います。

また、工大祭の役割にも気付くことができました。特に今年は、1年生の交流の場が少なく、同学年の友達や先輩と関わるようなことがあまりありませんでしたが、工大祭の活動を通して、実行委員同士の親睦が深まり、楽しそうにしている姿がとても印象的でした。自分にとって、オンライン配信が成功したことも嬉しかったのですが、実行委員や視聴者の皆様が楽しそうにしている姿を見られたのが、嬉しかったです。

最後になりますが、厳しい情勢の中で、工大祭という場を設けられたこと、とても感謝しています。第61回も一筋縄ではいかないかもしれませんが、温故知新の精神で新たな工大祭を作り上げてくれると思いますので、ご期待ください！

目玉の打ち上げ花火